マンスリーレポート　No.16

2016 年 7 月 31 日

久留米大学医学部医学教育研究センター
https://csme.kurume-u.ac.jp/
神代龍吉、安達洋祐、柏木孝仁、北川周子

1．第 48 回医学教育学会大会（大阪医科大学にて）の報告

守屋普久子（病理学）、佐柳和博（5 年生）、向原圭（医療センター）、犬塚裕樹（看護学科）、柏木の各氏および神代（シンポ司会）の計 6 題が久留米大学からの発表であった。向原先生は International session の座長も務めた。

学生セッションでは 35 題中上位 7 名に送られる優秀演題賞に佐柳君らの演題が選ばれた（席次と学生生活―佐柳和博、谷崎卓実、冨安柚乃、住元遥香、坂本譲、小路優輝、高木健太、田中智大、冨田怜子、吉留寛人および環境医学講座の森松嘉孝. 医学教育 47: suppl. 271, 2016）。

学友会総務委員長の大塚貴君が「きょういく DIY: 明日の医師と作る、これからの医学教育」と題する学生・教員対話セッションに参加した。

今年はシンポジウム 15、パネル４、一般口演 296、一般ポスター115、学生セッション 35、インターナショナルセッション 42、計 488 題とここ数年で最多の発表があった。

日本学術会議の医学分野参照基準案、Post CC OSCE（H32 年正式実施予定）の概要、理事会では「卒後医学教育 WFME 質的向上のためのグローバルスタンダード 2015 年版」も紹介され、今後の医学教育の方向性を探るのに有用な情報が得られた。

全国の地域枠 6 年生 480 名の進路希望（O-26-07）は地域枠学生の考えを浮き彫りにして興味深かった。

2．医学教育ワークショップ

学生の能動的学習を目指した 9 月 1 日（木）、2 日（金）の第 24 回久留米大学医学教育ワークショップへの参加予定数はまだ少ないので、各講座から一人は参加していただくよう、教育連絡主任宛および看護学科へ重ねて案内を出す。ワークショップでは 4 人一組のグループを組むので事前に参加者の名前をいただきたい。

3．第 2 回久留米大学 SP 養成講座

平成 28 年 7 月 23 日（土）15：00～17：00、岐阜大学医学教育開発研究センターの藤崎和彦教授に「医療面接―模擬患者養成委ついて」と題する講演をいただいた。22 名が聴講した。コミュニケーションスキル、SP から学生へのフィードバック、教員から SP へのファシリテーションなどについて詳細な話をいただいた。また医学教育学会大会の SP 関連の演題抄録を配布して SP 活動が広がるよう啓発した。

４．K-カメリア操作説明会

7 月 13 日（水）に当センターの柏木が説明会を開催した。なお、K-カメリアのシステムに使いにくい点がいくつか寄せられているので、問題プールシステム委員会での検討を経て、業者に改善を要求することになった。

５．学外活動

・7 月 26 日（火）安達が「医学教育指導者フォーラム」（医学教育振興財団）へ、翌 27 日（水）には「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」（文科省）へ参加した。

・7 月 28 日（木）～30 日（土）：当センター全員が大阪医科大学（高槻市）での第 48 回日本医学教育学会大会へ出席した。

以上